街の時計・眼鏡屋さんから学会論文執筆へ

トクマ時計店

代表　徳間　淳二氏
柏崎市諏訪町11－41
Tel. 0257-22-4553

入梅とともに梅雨空が続く六月中旬、市内諏訪町の昭和十五年創業で、時計・眼鏡・宝石・補聴器等を扱うトクマ時計店の二代目　徳間淳二さんからお話を伺いました。

徳間さんは昭和二十六年生まれの七十一歳。柏崎市で誕生され、高校まで市内の学校に通われました。高校卒業後は、三年間東京で時計の修業をした後、「これからは時計よりも眼鏡だ」というお父様の勧めもあって東京の眼鏡の専門学校に通われました。

昭和五十年に柏崎に戻り当店に入店されて以降も、週二回は市内の眼科医のお手伝いをしながら眼の勉強に努め、光の進路を屈折させることができるプリズムレンズの研究も行ってきました。その努力の甲斐もあって、どうしても大型二種運転免許を取得してタクシードライバーになりたい一人の女性を救うことができました。

その女性は、大型免許の取得に必要な遠近感・立体感をみる深視力検査に合格できなかったため大型免許をなかなか取得できませんでしたが、徳間さんは、その女性向けにプリズムレンズの眼鏡を製作されて、見事合格に導かれました。その女性からは長い間感謝されてきたそうです。そういった成功事例もあり、当初一割だった眼鏡の売上割合が三割くらいまで増えたそうです。

平成十年以降、インターネット販売の台頭で、時計、眼鏡ともに販売は減少していましたが、補聴器の販売が徐々に増加し、時計の修理や電池交換も増加傾向にありました。更には、補聴器や宝石のイベントを実施する等により、常に新しい顧客を獲得し、安定した売上を確保してきました。しかしながら、昨今の新型コロナウイルスの影響もあってここ二年間イベントを開催できず、厳しい営業を余儀なくされてきました。

一方、徳間さんは、約三十年前に独自の計算式を見つけたことがきっかけで、独学で眼の研究を続けてこられました。両手の指を一本ずつ目の前に前後に並べ、一本に焦点を合わせると、もう一本が二本に見えますが、その二本に見える指を動かすと、二本が一本になる位置があり、その軌跡のことを「ホロプター」と呼びます。徳間さんは、この「ホロプター」の研究に邁進され、平成二十七年から日本眼鏡学会で四回もの論文を発表されています。「私の論文は、国立国会図書館や国立情報学研究所でも検索できます。今後は更なる高みを目指し、日本視覚学会での論文を執筆中です。」と論文執筆への熱い想いを語っていただきました。

柏崎市内では新型コロナウイルスの影響から少しずつ落ち着きを取り戻しつつあるため、当店においても補聴器や宝石のイベントを再開予定とのことで、ご商売も少し明るい兆しが見えつつあるようです。

常に現状に満足せず、街の時計・眼鏡屋さんでありながら、知的好奇心を持って学会論文執筆に向かわれている徳間さんの姿が本当に素晴らしいと感じました。

（十人衆 ㊟・㊢ 取材）

柏崎元気人登場 なじょだね とは……？

当紙に掲載している『柏崎元気人登場 なじょだね』は、柏崎地域の事業所を取材に行き、代表者の人となりや会社に込める想い、どのようなお仕事を行っているかなどをご紹介するコーナーです。

取材には、商工会議所の会員で、会議所と会員の皆様とのパイプ役として活動を行っている小規模企業振興委員会の中から十名の方より『なじょだね編集委員』を務めていただき、毎月分担しながら取材・原稿作成を行っています。

様々なお仕事で活躍されている会員の方々をご紹介していきますので、ご期待ください。